

「日本保健物理学会・令和3年度企画シンポジウム」開催案内

開催日：令和3年6月21日（月）、22日（火）

※21日午前は日本保健物理学会員限定

会場：Zoomウェビナー

主催：一般社団法人日本保健物理学会

共催：一般社団法人日本放射線安全管理学会

参加費：無料

参加登録フォーム：<http://www.iips.co.jp/cgi-bin/participants/form.cgi>

※参加登録期限：6月16日（水）

※会場URLは6月18日（金）までに案内予定

問い合わせ先：exec.off@jhps.or.jp（日本保健物理学会事務局）

【プログラム】

総合司会：橋本 周（企画委員会委員長）

6月21日（月）

10:00~10:40

若手研セッション

「ソーシャルメディアの活用方針」（40分間）

※保健物理学会員限定

概要：若手研究会では、業務や学びの円滑化を通じた業界の活性化を目的に、積極的な情報発信や広報活動をサポートする情報拡散ツールとしてソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を活用することとし、facebookに加えてTwitterのアカウントを新たに開設した。本講演では若手研におけるSNSの活用方針と公開からこれまでのTwitterアカウントへのアクセス状況について解説する。

座長：辻 智也（原子力機構）

1. 若手研におけるSNSの活用方針 廣田 誠子（広島大）
2. 若手研Twitterアカウントへのアクセス状況 渡邊 裕貴（原子力機構）
3. 質疑応答

10:45~12:00

（学会賞授賞式・社員総会）

※別途、出欠登録が必要

13:00~14:00

専門研究会セッションI

「放射性廃棄物処分に係わる生活圏被ばく評価に用いられるパラメータ調査専門研究会」（30分間）

概要：放射性廃棄物処分に係る生活圏被ばく評価では多様な環境パラメータが用いられる。本専門研究会では、元素依存パラメータ（土壌中における固液分配係数・土壌からの農作物への移行係数・水産物への濃縮係数）について、従来使用されてきた値の出典・根拠を

追跡調査すると共に、近年の新しいデータ収集や値の不確実性および変動要因を検討し、より妥当性の高い評価へと繋げることを目的とする。

座長：高橋 知之（京大）

1. 検討課題・検討結果 深谷 友紀子（日本エヌ・ユー・エス）

「教育現場における低エネルギーX線を対象とした放射線安全管理に関する専門研究会」（30分間）

概要：本専門研究会ではクルックス管からの漏洩X線に関して教育現場に於ける放射線安全管理の考え方を確認し、線量低減のための装置運用上の注意点の提案と注意点を遵守した場合の線量低減効果の実態調査を行ってきた。さらに、より確実な安全管理のために、スクリーニング手法の確立、スクリーニングで高線量漏洩の恐れがあった場合の評価体制と、残された問題点について報告する。

座長：秋吉 優史（大阪府立大）

1. 教育現場における低エネルギーX線を対象とした放射線安全管理に関する専門研究会活動報告と、今後

秋吉 優史（大阪府立大）

14:00~15:30

臨時委員会セッション

座長：飯本 武志（東京大学）

「放射線安全文化についての意識と実践に関する検討委員会」（45分間）

概要：概要：RI法の枠組みにおいて放射線安全文化の醸成を成していく中で、教育・研究・医療・産業などの様々な分野で活発な議論が行われている。これらを実際に実行し安全文化を浸透させていくためには、それぞれの放射線施設における管理者や使用者の意識が重要となってくる。本報告では、使用実態や規模などが違う放射線施設においてそれぞれが考える安全文化や、その実行方法そして問題点などの調査を行ったため報告する。

1. 放射線安全文化についての意識と実践に関する検討委員会の2020年度活動概要 高橋 賢臣（大阪大）
2. 質疑応答

「緊急時モニタリング委員会」（45分間）

概要：福島事故の教訓を反映した我が国の緊急時モニタリング体制の整備は、原子力発電所の再開が行われる現状にあって最重要事項である。特に、モニタリングの運用体制の確立はもちろん、甲状腺モニタリングの体制整備、緊急時モニタリング情報の迅速でわかり易い情報伝達の仕組みが福島事故の教訓から求められている。本臨時委員会では、緊急時モニタリングに関する多角的な実態調査を行い、我が国における事故やテロ等に備えたモニタリング体制の整備と強化を目的とした提言を行う。

1. 緊急時モニタリング検討委員会の活動概要

細田 正洋 (弘前大)

2. 質疑応答

15:30~17:30

専門研究会セッションII

「人文・社会科学視点から考察する自然起源放射性物質含有廃棄物の取扱い専門研究会」 (60分間)

概要：ウラン及びその子孫核種に汚染された「ウラン廃棄物」の取扱いについては、近年原子力規制委員会等において集中的な審議が行われ、一定の方針が示されつつある。本専門研究会では、将来世代に相当の負担をもたらすウラン廃棄物の処分には、理工学的視点の検討だけでなく、人文・社会科学的視点からの考察が重要であると考え、関連する分野の専門家を交えた議論を進めてきた。本セッションでは、これまでの討論や今後予定している議論の方向性等について紹介する。

座長：麓 弘道 (日本検査株式会社)

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. 挨拶、背景 | 保田 浩志 (広島大) |
| 2. 本専門研究会における検討の経緯 | 齋藤 龍郎 (原子力機構) |
| 3. 人文・社会科学的見地からの論点 | 菅原 慎悦 (関西大) |
| | 土田 昭司 (関西大) |
| 4. 総合討論 | |

「RI施設における放射線管理を目的とした測定の信頼性確保に関する専門研究会」 (30分間)

概要：令和5年10月1日施行予定のRI規制法施行規則第20条(令和2年9月11日改正)では、外部被ばく線量の測定、場所の線量、汚染の線量測定等に用いる測定器は測定の信頼性の確保を求められることになる。国は「放射線障害予防規程に定めるべき事項に関するガイド」の改正により、事業者が準拠すべき規格を例示する予定だが、現場の管理者の意識との差異が生じることが懸念される。この研究会では、放射線管理の現場において予防規程ガイドが要求する測定の信頼性を確保するための現実的な手法を検討する予定である。

座長：黒澤 忠弘 (産総研)

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 専門研究会の概要 | 牧 大介 (京都大) |
|-------------|------------|

「環境中トリチウムの放射線防護に関する専門研究会」 (30分間)

概要：廃炉に向けた作業が進んでいる東京電力福島第一原子力発電所敷地内には、トリチウムを含む処理水が大量に保管されており、今後の海洋放出に向けて社会的にも関心が高まっている。しかし、トリチウムの分析技術や環境動態、生物影響に関する情報とその理解は十分と言えない。そこで、トリチウムに関する基礎的な知見を整理し、今後生じるトリチウムに関する課題解決に向け、放

放射線防護の体系に則った現実的なアプローチを検討する。

座長：赤田 尚史（弘前大）

1. 環境中トリチウムの放射線防護に関する専門研究会について
柿内 秀樹（環境研）
2. 質疑応答

6月22日（火）

10:00~12:00

翻訳ワーキンググループ報告セッション

「IRPA Practical Guidance for Engagement with the Public on Radiation and Risk」（120分間）

概要：本WGでは、IRPAが加盟学会に行ったコンサルテーションにおいてRP専門家・実務家からの意見として、放射線防護システムにおけるもっとも必要であるとされた項目(Key issues)の一つであるPublic Understandingをテーマとして、IRPAが加盟学会に向けて2020年に発行した”Practical Guidance for Engagement with the Public on Radiation and Risk”を日本語に翻訳し、国内の放射線防護専門家をはじめとした本テーマに関心を有する関係者へ提供することを目的とし活動を進めている。シンポジウムにおいては、各担当委員より、翻訳の進捗およびガイダンスの要点を紹介する。

座長：河野 恭彦（原子力機構）・野村 直希（福井工大）

1. WG設立趣旨説明 吉田 浩子（東北大）
2. 翻訳作業の進捗状況の報告 河野 恭彦（原子力機構）
3. 翻訳作業における共通のルールを紹介 野村 直希（福井工大）
4. 各章の要点の説明（途中休憩あり）

吉田 浩子（東北大）

野村 直希（福井工大）

河野 恭彦（原子力機構）

迫田 晃弘（原子力機構）

黒田 佑次郎（福島県／福島医大）

内藤 航（産総研）

廣田 誠子（広島大）

工藤 伸一（放影協）

恵谷 玲央（大分県立看護科学大）

近本 一彦（日本エヌ・ユー・エス）

平杉 亜希（日本エヌ・ユー・エス）

中嶋 純也（原子力機構）

5. 質疑応答

13:00~17:30

国際対応委員会セッション

第1部：IAEA DS499(免除)及びDS500(クリアランス)の動向と論点

(120分間)

概要：国際原子力機関（IAEA）は、安全指針RS-G-1.7「規制除外，規制免

除およびクリアランスの概念の適用」(2004年出版)の改訂について、それぞれDS499(規制免除)及びDS500(クリアランス)を作業IDとして検討を進めており、6月現在、加盟国を対象としたドラフト文書に対する120日間の意見照会を実施している。両文書では、規制免除やクリアランスの判断に用いられる濃度基準に数値的な変更はないものの、個別免除や条件付クリアランス、液体状や気体状の物質へのクリアランス概念の適用等、国内制度には取り入れられていない新たな内容が示されていることから、これらの改訂動向を共有するとともに、総合討論において、測定、実務、規制、防護体系、社会等の視点から課題と論点を整理する。

座長：佐々木 道也(電中研)

1. IAEA規制免除の概念の適用に関する安全指針案(DS499)
米原 英典(原安協)
2. IAEAクリアランスの概念の適用に関する安全指針案(DS500)
服部 隆利(電中研)
3. 総合討論

ファシリテーター：甲斐 倫明(日本文理大)

パネリスト(測定)：山田 崇裕(近畿大)

パネリスト(実務)：橋本 周(原子力機構)

山本 正史(原環センター)

パネリスト(規制)：山田 憲和(規制庁)

酒井 宏隆(規制庁)

荻野 晴之(規制庁)

パネリスト(防護体系)：米原 英典(原安協)

服部 隆利(電中研)

パネリスト(社会)：山口 一郎(国立保健医療科学院)

(休憩 15:00~15:15)

第2部：Current status of Fukushima Daiichi decommissioning project, treated water, and future collaboration among RP experts - JHPS and KARP (in English) (135分間)

概要：東京電力福島第一原子力発電所の廃炉プロジェクトにおいて、ALPS処理水の海洋放出方針に関する政府決定(2021年4月13日、廃炉・汚染水・処理水対策関係閣僚等会議)は国内外の注目を集めた。本セッションでは、隣国として高い関心を寄せている韓国の放射線防護専門家と廃炉の進め方及びトリチウムなどの環境モニタリング情報を共有し、事故時および事故後の状況において韓国放射線防護学会との連携関係の構築に向けてさらなるコミュニケーションを推進することと放射線防護の専門家の役割を議論する。

Co-chairs: Hiroko Yoshida (Tohoku Univ.), Michiya Sasaki (CRIEPI)

1. Introduction Hiroko Yoshida (Tohoku Univ.)

2. Current status of decommissioning at Fukushima Daiichi NPS and disposal of ALPS treated water

Junichi Matsumoto (TEPCO)

3. Long term behavior of tritium activity concentration in coastal regions of Fukushima and the North Pacific Ocean since 1970s

Michio Aoyama (University of Tsukuba)

4. Korean public's understanding and perception to this issue

Yong Hoon Jeong (KARP, KAIST)

5. Activities of JHPS

Michiya Sasaki (CRIEPI)

6. Panel discussion

Facilitator: Michiya Sasaki (CRIEPI)

Panelist: Junichi Matsumoto (TEPCO)

Michio Aoyama (University of Tsukuba)

Hiroko Yoshida (JHPS, Tohoku Univ.)

Michiaki Kai (JHPS, Nippon Bunri Univ.)

Yong Hoon Jeong (KARP, KAIST)

Kyo-Youn Kim (KARP President, KAERI)

Hee-Seock Lee (KARP Vice President, PAL/POSTECH)